

万有福岡シンポジウム
25年の節目に捧げる感謝の詩

九州大学名誉教授 金政修司

私事ながら、教授に昇進して間もない1989年の夏のある日のことでした。香月先生から思いがけない電話が入りました。札幌において興味深い有機合成化学のシンポジウムが開催されたんだよ。彼の声が妙に浮き立って落ち着きません。スポンサーが萬有製薬と聞いて驚きました。奇特的な会社だなあと穏やかに反応しましたが、研究室の先輩がメルク社の研究所に勤めていた関係で、会社名だけは知っていました。同様なシンポジウムを福岡でも開催したいらしい。感情が突沸しました。彼の脳裏には、万有シンポジウムの今日の繁栄がすでに思い描けていたのでしょうか。1991年に万有福岡シンポジウム誕生決定の瞬間でした。

万有福岡シンポジウムの実行委員会は、25周年記念シンポジウムを迎えることができたことを共に祝い、四半世紀の永きに渡ってこのシンポジウムを支え続けて下さった万有生命科学振興国際交流財団のご英断に対して、心からの感謝の詩を捧げます。しかし、この25年間シンポジウムを牽引してこられた香月先生の姿はこの会場にはありません。先生が実行委員会を代表して、感謝の言葉を申し述べる予定でしたのに・・・残念です。心よりご冥福をお祈りいたします。

あれから四半世紀を経てすでに退職し、私の中では化学は止まっています。私にとって、息の長いシンポジウムは創造の活力を与え続けてくれた源泉でした。人生の四半世紀のドラマであることを老人は悟りました。教員側の価値観を若者に押し付けたくはありませんが、学生諸君には、講演から何を学んだかを尋ねてみたい誘惑に駆られます。講演を理解できたか、新鮮な感動を覚えたか、今までの自分から脱皮して独自の優れたアイデアを提案できる契機となったか、そして、将来このような研究者になりたいと思うか？このような課題を自分に課してシンポジウムに臨むことを奨めたいと思います。

万有福岡シンポジウムには例年500～600人の科学者が参加しますので、25年の総参加者は1.5万人を越えます。狭い専門分野に興味を抱く人間の集団なので、多様な価値観を有する近親集団なのです。この多様性がシンポジウムの大きな魅力だと思います。選りすぐりの講演者だけでも150人近くの数となります。彼らが身骨を砕いて設定した研究課題の価値評価を楽しむ機会を与えられ、この経験が以降の人生にとって大きな財産となりました。継続は力なりと申しますが、興奮のるつぼの中で蜜の味を楽しめた我々は、研究者冥利に尽きます。一方で、支え続けなければならなかった財団側の満足感は何だったのでしょうか？四半世紀の仕事が蓄積されて、後の世に大きな貢献をなすことは、誰にでも容易にできることではありません。今後の我が国の有機合成化学を支えてくれる後継者が立派に育って、これから益々の楽しみを残して下さった、万有生命科学振興国際交流財団に最大級の敬意と感謝を捧げたいと思います。どうもありがとうございました。